「消費者と生産者の交流会」を実施しました！

石狩振興局では、地域政策推進事業（いしかり元気な農村ビルドアップ事業）で消費者による農業・農村の理解を進め、地産地消と食育を更に進める取組を行っています。

８月７日（日）恵庭市の余湖（よご）農園において、「消費者と生産者の交流会」を実施し、消費者１２組２６名の方が参加しました。

朝８：３０にＪＲ札幌駅に集合し、バスで恵庭市の余湖農園に向かいました。

余湖農園に到着後、研修室で代表の余湖智さんから参加者の班分けと作業内容の説明がありました。

午前中２時間、参加者の皆さんは５つの班に分かれ、玉葱やキュウリ、にんじんなど野菜のパック詰め、ニンニクを出荷するため塊茎を分けたり、レタスを畑に移植する作業などを行いました。

余湖農園は、野菜など生産したものを洗浄・選別・パック詰し、スーパーの店頭に並べられる状態で出荷しています。

参加者の皆さんは、農園の担当者の方から話を聞くなど、野菜がスーパーに並ぶ前にどのような作業を行っているのか理解されていました。

その後、昼食のピッザを作るため、余湖農園で生産された小麦の「はるゆたか」を生地につかい、たっぷりの野菜など各自が好みの具材をトッピングし、外のピッザ窯で焼いて頂きました。

意見交換では、まず余湖さんから(有)余湖農園の経営として、生産・加工・観光（販売）の６次産業化に取り組んでいること、労働力不足と外国人研修生の受入の話しのほか、食育の重要性として子どもの頃の偏食は大人になってから社会性にも影響があるのではないかということでした。

参加者からは、研修生のことや野菜の販売ロスなどについて質問があり、曲がったキュウリでも１本２本、多く入れることでどんどん売れることや大きくなり過ぎた大根を大根おろし向けにたくさん売れていることなどが紹介された。

意見交換の後、野菜の収穫体験として、ミニトマト、ピーマン、なす、長ネギを参加者それぞれで収穫し、お土産として持ち帰りました。

今回の取組を通して、石狩の農畜産物への理解が深まり、地産地消や食育の意識が広がることを期待しています。

石狩振興局の食育・食農体験の取組はこちらをご覧ください。
http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/ss/num/syoku/syokuiku.htm

・「超!!旬ほっかいどう（石狩地域）」
http://plaza.rakuten.co.jp/machi01hokkaido/diary/?ctgy=23

・「いしかり育ちの食」
http://plaza.rakuten.co.jp/ishikarisodachi/